

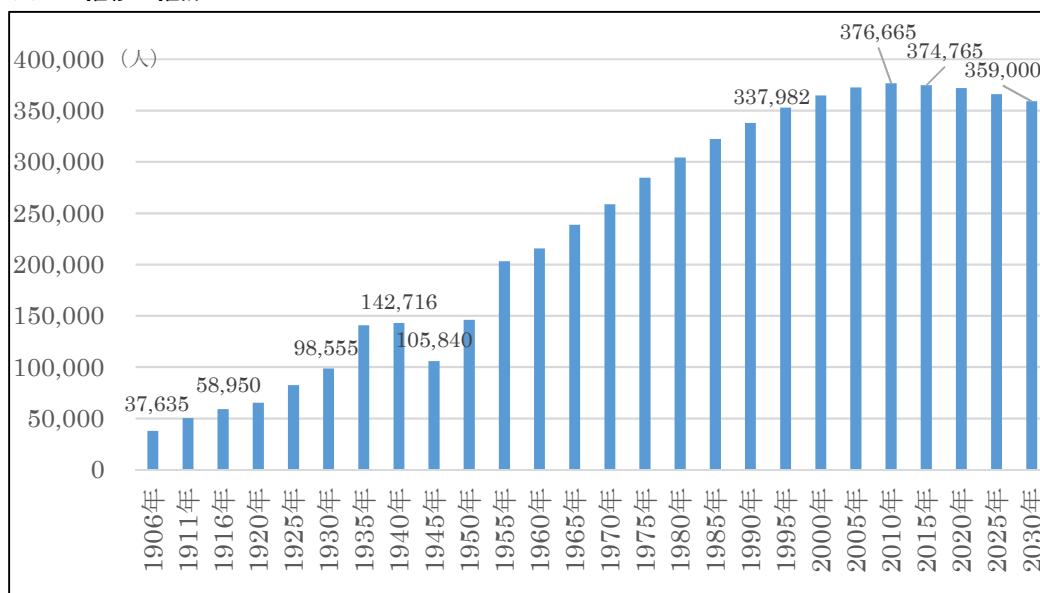
3 スポーツを取り巻く社会潮流及び基本認識

(1) スポーツを取り巻く環境の変化

■人口減少・少子高齢化並びに生涯活躍社会への期待

本市の総人口は、既に2010（平成22）年をピークに減少局面に入っており、総人口に占める老年人口の割合の増加が続く見通しとなっています。一方で、医学の進歩や生活水準の向上などにより、全国的に平均寿命が延伸していることもあり、本市においても本格的に生涯活躍社会・人生100年時代の到来が見込まれています。

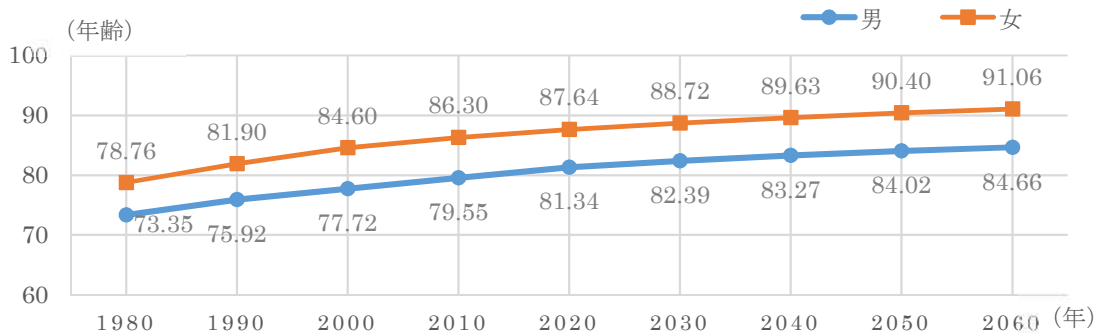
《人口の推移と推計》



※2020（令和2）年以降はコーホート要因法による推計値

資料／国勢調査

《平均寿命の推移と将来推計（資料：内閣府「高齢社会白書（2019）」）》

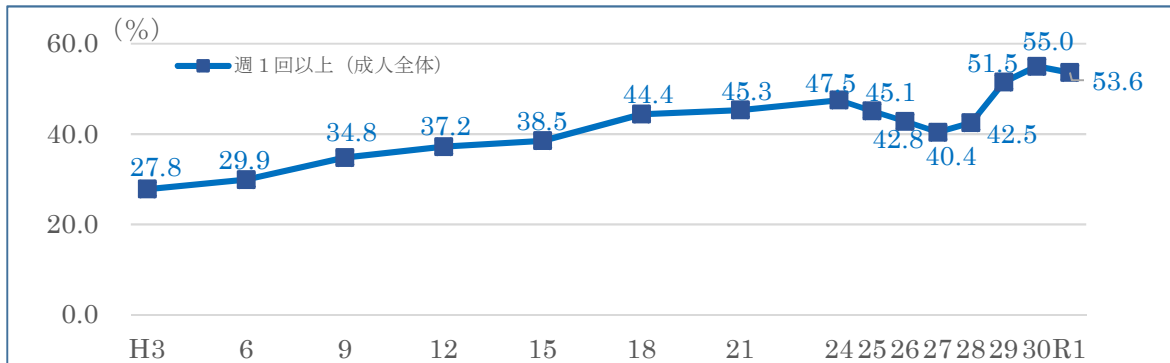


※2020（令和2）年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計値

■スポーツへの関心の高まり並びにニーズの多様化・高度化

スポーツ庁が行っている「スポーツの実施等に関する世論調査」において、成人のスポーツ実施率が増加傾向にあるなど、住民の健康意識の高まりとともにスポーツへの関心が高まっています。こうした中で、住民が日常的に行うスポーツも、フィットネス、ウォーキング、スイミングなど、個人のライフスタイルに合わせて広がりを見せています。

《成人のスポーツ実施率の推移》



出典/スポーツ庁 「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

■スポーツ施設（公共施設）の老朽化

本市には、総合体育館、屋内プール・アイスアリーナ、武道館や地区体育館などの屋内スポーツ施設のほか、陸上競技場、市民球場、市民球技場をはじめとする数多くの屋外スポーツ施設があります。これらのスポーツ施設の多くは 1970 年代から 1990 年代前半に整備されており、開設から長い年月を経過していることから、施設の老朽化が進んでいます。

《本市の主なスポーツ施設の開設年》

○屋内スポーツ施設

施設名	開設年
武道館	1973 (S48)
前田南地区体育館	1974 (S49)
新栄地区体育館	1975 (S50)
牛川地区体育館	1982 (S57)
草間地区体育館	1984 (S59)
飯村地区体育館	1985 (S60)
総合体育館	1989 (H1)
下五井地区体育館	1989 (H1)
浜道地区体育館	1990 (H2)
二川地区体育館	1991 (H3)
石巻地区体育館	1992 (H4)
大清水地区体育館	1994 (H6)
屋内プール・アイスアリーナ	2006 (H18)

○屋外スポーツ施設

施設名	開設年
豊橋球場	1948 (S23)
陸上競技場(※)	1949 (S24)
軟式庭球場	1949 (S24)
硬式庭球場	1965 (S40)
市民プール(※)	1965 (S40)
市民球場	1980 (S55)
市民庭球場	1981 (S56)
市民球技場	1982 (S57)
万場調整池庭球場	1991 (H3)
総合スポーツ公園サッカー場	2020 (R2)

(市政概要をもとに作成)

※市民プールについては 2008 (平成 20) 年、陸上競技場については 2018 (平成 30) 年に改築等のリニューアルを行っています

■新型コロナウイルスに伴う新しい生活様式の導入

新型コロナウイルス感染症により、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となり、さまざまなスポーツ大会や、市民が日常的に行ってきたスポーツ活動も先行きが不透明な状態となりました。今後は、3密を避け施設の定期的な換気を行うといった「新しい生活様式」に基づきながらスポーツ活動を進めるといった対応が必要になると見込まれます。

■持続可能社会実現の要請

貧困や教育、女性の地位向上や地球環境の保全などを開発目標として 2015（平成 27）年の国連サミットにて「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、この中で、持続可能な世界を実現するため、地球上の「誰一人取り残さない」ことが誓われています。国連も「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである」としており、内閣府の「SDGs 未来都市」の選定を受けた本市としてもスポーツを通して、SDGs を踏まえたまちづくりを進めることが求められます。



(2) スポーツに関する市民意識調査

新たな計画の策定にあたり、市民ニーズを計画に反映させるため、スポーツに関する市民の意識を把握するアンケート調査を行いました。

■調査概要

- ・調査期間 2020（令和2）年8月1日（土）から8月19日（水）まで
- ・調査対象 市内在住の16歳以上の男女
- ・送付数 3,000人分（住民基本台帳から無作為抽出）
- ・調査方法 設問用紙を郵送し、郵送またはWebにより回答
- ・回答数 1,036人（34.5%）
- ・属性 性別・年代の内訳は次のとおり

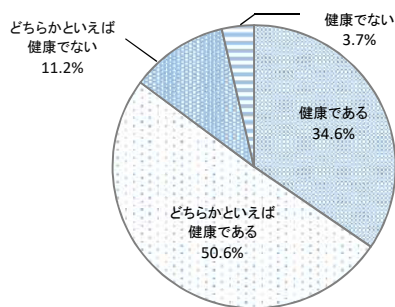
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
男性	19(1.9%)	34(3.3%)	60(5.9%)	84(8.2%)	68(6.7%)	75(7.4%)	127(12.4%)	467(45.8%)
女性	21(2.1%)	34(3.3%)	75(7.4%)	86(8.4%)	94(9.2%)	104(10.2%)	138(13.5%)	552(54.1%)
その他	—	—	1(0.1%)	—	—	—	—	1(0.1%)
総計	40(4.0%)	68(6.6%)	136(13.4%)	170(16.6%)	162(15.9%)	179(17.6%)	265(25.9%)	1,020
無回答								16

■「健康」や「運動不足」に関する調査結果

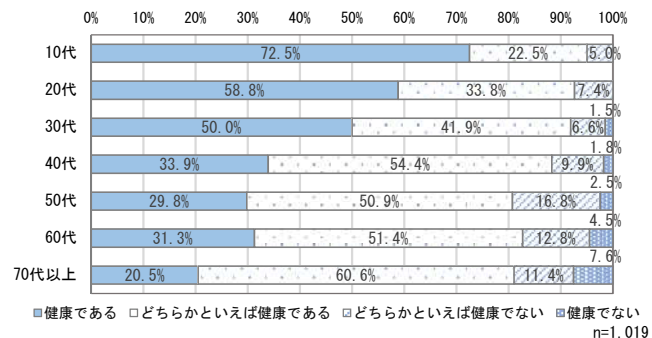
○健康に対する意識

- ・全体で最も多いのは「どちらかといえば健康である」（50.6%）、次いで「健康である」（34.6%）となっており、「健康である」「どちらかといえば健康である」をあわせると85.2%となります。
- ・年代が高くなるにつれて、「健康である」の割合が低くなっています。

《健康に対する意識（年代別）》



n=1,030

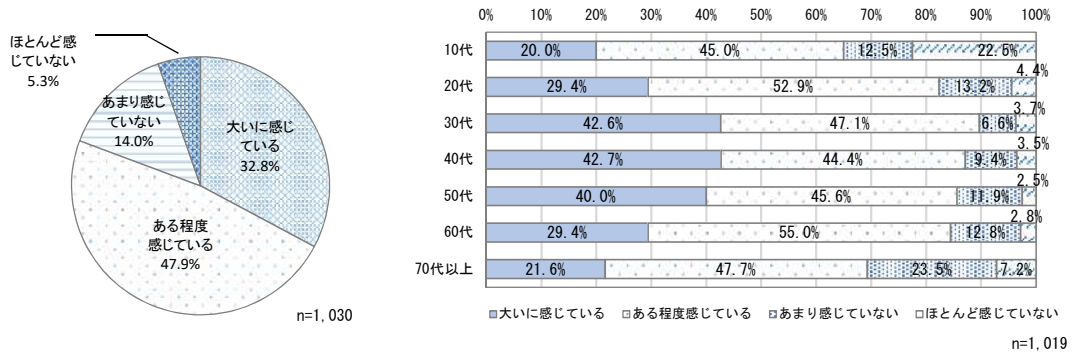


n=1,019

○運動不足に対する意識

- ・全体で最も多いのは「ある程度感じている」(47.9%)、次いで「大いに感じている」(32.8%)となっており、「ある程度感じている」「大いに感じている」をあわせると80.7%となります。
- ・「ある程度感じている」「大いに感じている」をあわせた割合が最も多いのは30代(89.7%)となっており、また20代から60代までの各年代で80%を超えています。

《運動不足に対する意識（年代別）》

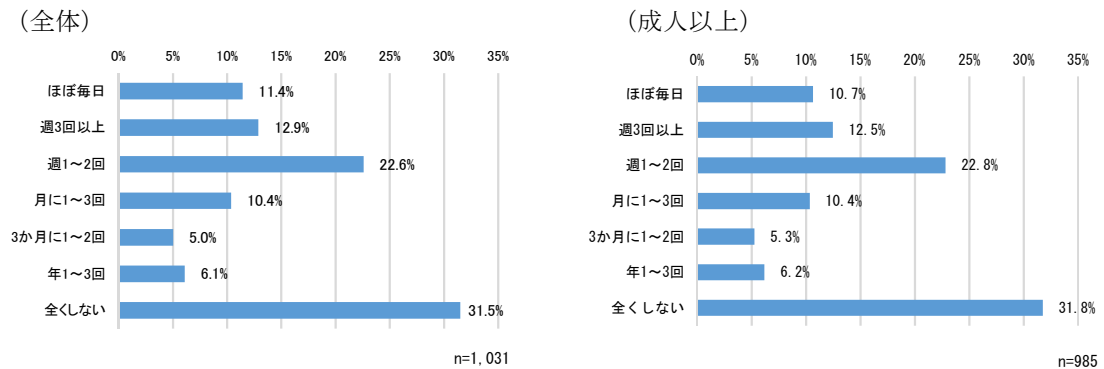


■スポーツを「する」に関する調査結果

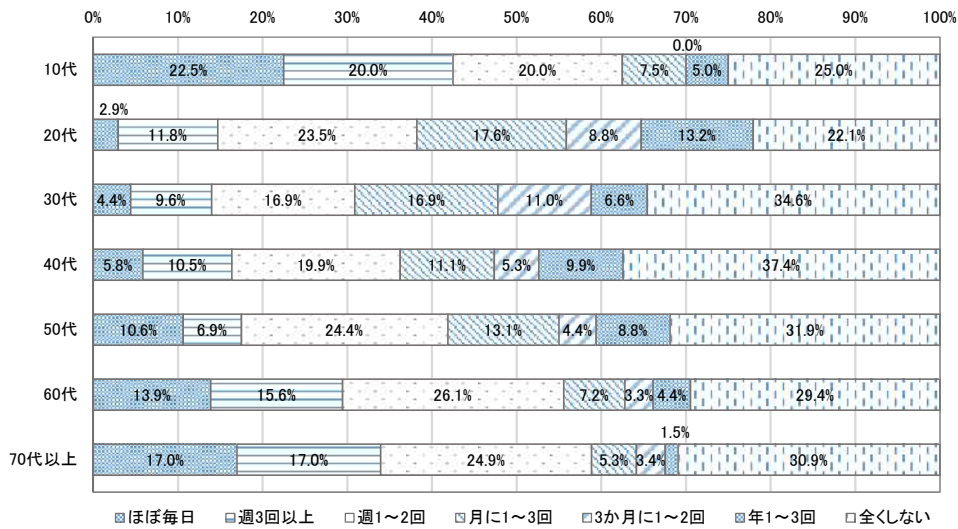
○スポーツ実施率

- ・週1回以上スポーツをする人の割合は46.9%（成人以上の場合には46.0%）と50%を下回っています。
- ・スポーツを全く行わない人の割合が31.5%と一番多くなっています。
- ・年代別では、週1回以上のスポーツ実施率が最も多いのは10代(62.5%)、次いで70代(58.9%)となっています。
- ・20代から50代までのスポーツ実施率が低くなっており、特に30代の週1回以上のスポーツ実施率30.9%が、最も低くなっています。

《スポーツ実施率（全体・成人以上）》



《スポーツ実施率（年代別）》

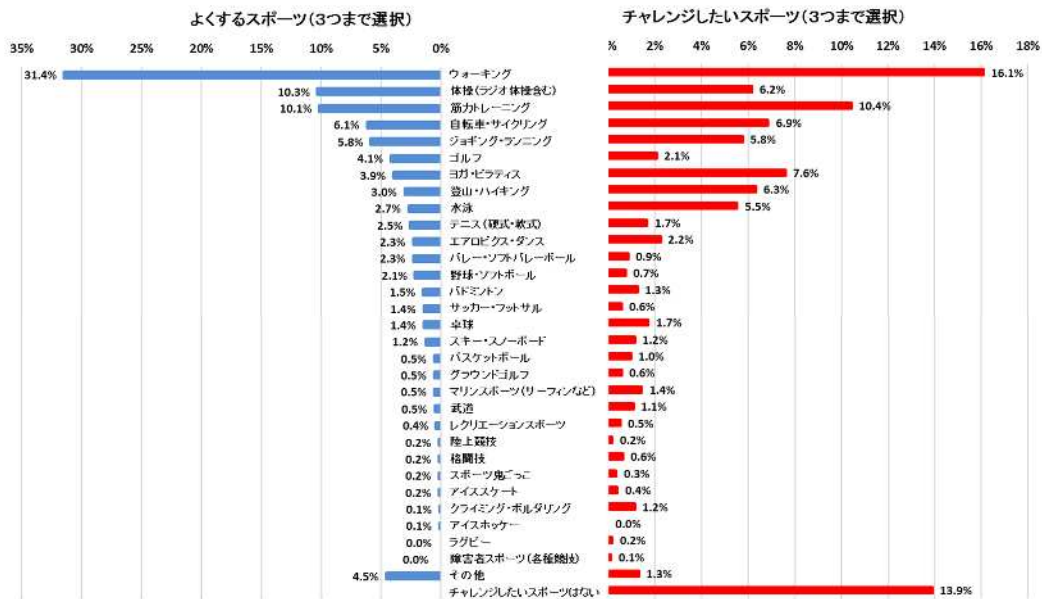


n=1,020

○よくするスポーツ・新たにチャレンジしたいスポーツ

- ・よくするスポーツ、新たにチャレンジしたいスポーツともに「ウォーキング」の割合が最も多くなっています。
- ・「ヨガ・ピラティス」「登山・ハイキング」「水泳」は、よくするスポーツに対し、チャレンジしたいスポーツにおいて、その割合が比較的高くなっています。
- ・「チャレンジしたいスポーツがない」と回答した方の割合は 13.9%となっています。

《よくするスポーツ・新たにチャレンジしたいスポーツ》



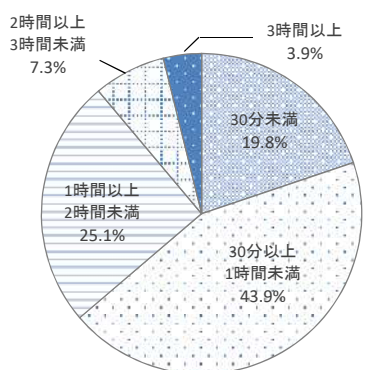
n=1,304

n=1,734

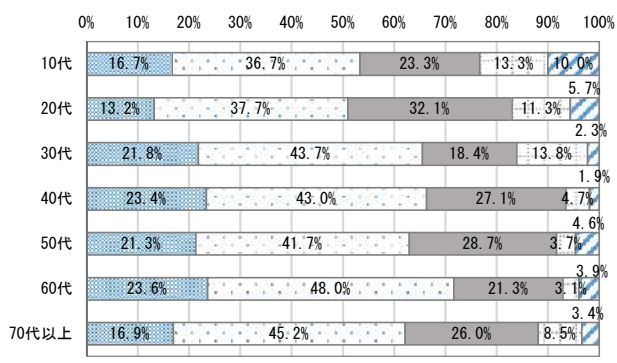
〇1回あたりの平均スポーツ実施時間と実施時間帯

- ・ 1回あたりのスポーツ実施時間が最も多いのは「30分以上1時間未満」(43.9%)、次いで「1時間以上2時間未満」(25.1%)、「30分未満」(19.8%)となっており、約9割が1回あたりの実施時間が「2時間未満」となっています。
- ・ スポーツ実施時間帯で最も多いのは「平日の午前中」(28.1%)、次いで「平日の午後」(20.7%)となっており、平日に運動する割合が高くなっています。

《1回あたりのスポーツ実施時間》



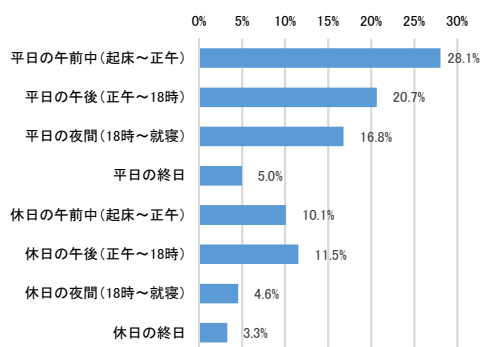
n=701



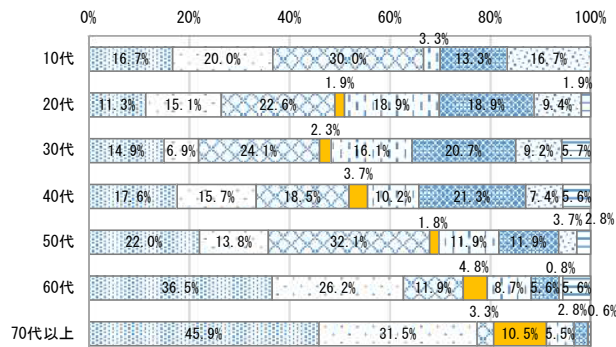
■30分未満 □30分以上1時間未満 ■1時間以上2時間未満 □2時間以上3時間未満 ■3時間以上

n=698

《スポーツ実施時間帯》



n=702



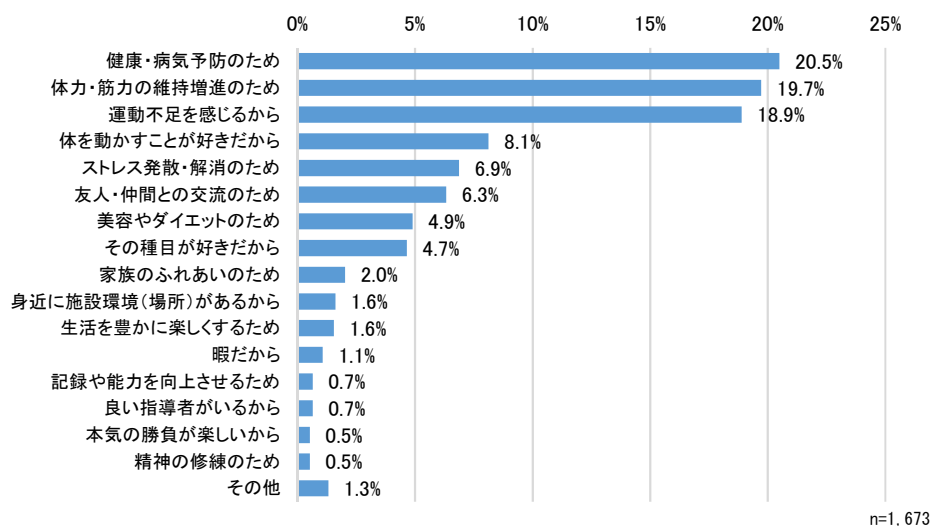
■平日の午前中(起床～正午) □平日の午後(正午～18時) □平日の夜間(18時～就寝)
■平日の終日 □休日の午前中(起床～正午) □休日の午後(正午～18時)
■休日の夜間(18時～就寝) □休日の終日

n=694

○スポーツをする理由

- ・全体で最も多いのは「健康・病気予防のため」(20.5%)、次いで「体力・筋力の維持増進のため」(19.7%)、「運動不足を感じるから」(18.9%)で、これらの理由をあわせると全体の約6割となります。
- ・年代別では、30代までは「体を動かすことが好きだから」がスポーツをする理由の3位までに入っています。
- ・20代以上のすべての世代で「運動不足を感じるから」がスポーツをする理由の3位までに入っています。

《スポーツをする理由について》



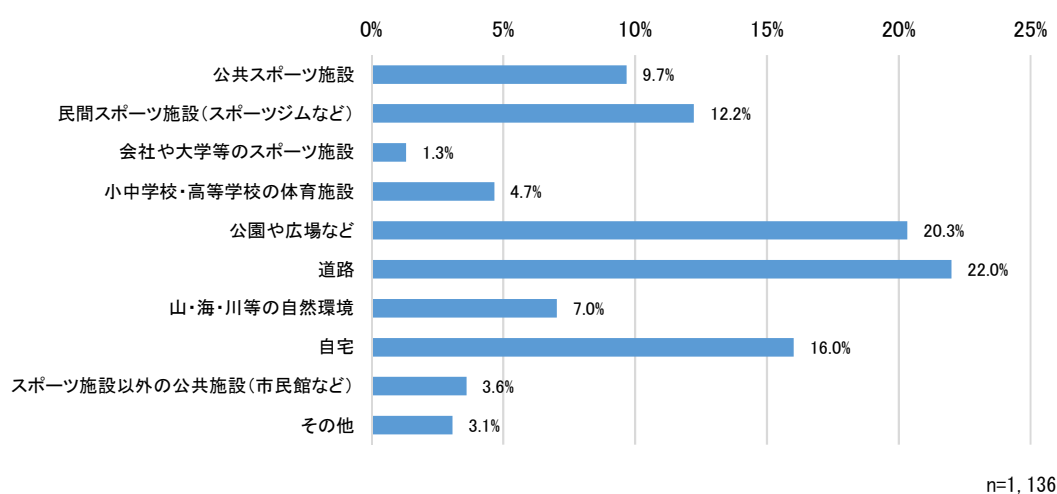
《スポーツをする理由について（年代別上位3位）》

年代	主な理由	割合	年代	主な理由	割合		
10代	1位	体を動かすことが好きだから	14.9%	50代	1位	運動不足を感じるから	22.4%
	2位	体力・筋力の維持増進のため	11.9%		2位	体力・筋力の維持増進のため	21.2%
	2位	その種目が好きだから	11.9%		3位	健康・病気予防のため	20.8%
20代	1位	運動不足を感じるから	17.4%	60代	1位	健康・病気予防のため	26.1%
	2位	体力・筋力の維持増進のため	15.7%		2位	体力・筋力の維持増進のため	21.8%
	3位	体を動かすことが好きだから	11.6%		2位	運動不足を感じるから	21.8%
30代	1位	体力・筋力の維持増進のため	18.5%	70代以上	1位	健康・病気予防のため	27.7%
	2位	運動不足を感じるから	18.1%		2位	体力・筋力の維持増進のため	22.0%
	3位	体を動かすことが好きだから	12.5%		3位	運動不足を感じるから	17.6%
40代	1位	運動不足を感じるから	18.3%				
	2位	健康・病気予防のため	17.5%				
	3位	体力・筋力の維持増進のため	16.7%				

○スポーツをする場所・施設

- ・スポーツをする場所・施設で最も多いのは「道路」(22.0%)、次いで「公園や広場など」(20.3%)、「自宅」(16.0%)となっています。
- ・スポーツをする場所として、公共施設の中で最も多いのは「公共スポーツ施設」(9.7%)、次いで「小中学校・高等学校の体育施設」(4.7%)、「スポーツ施設以外の公共施設(市民館など)」(3.6%)となっています。

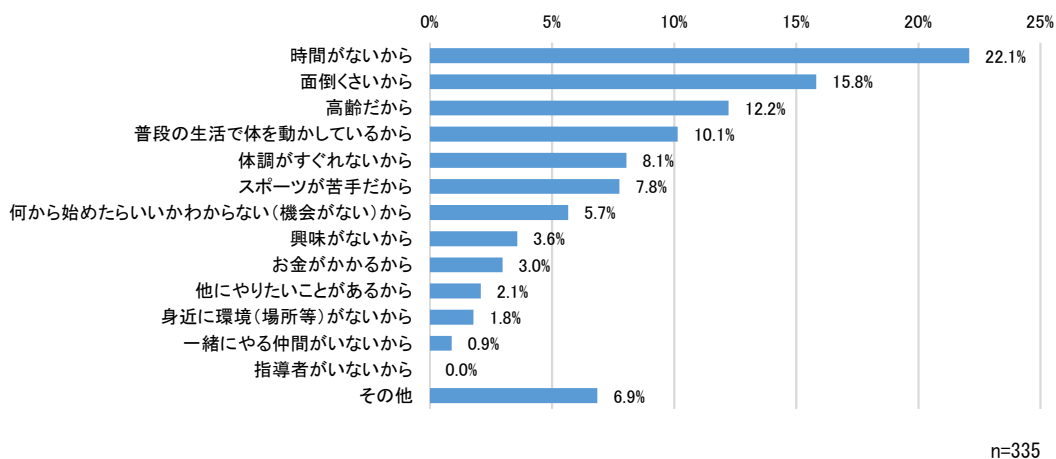
《スポーツをする場所・施設》



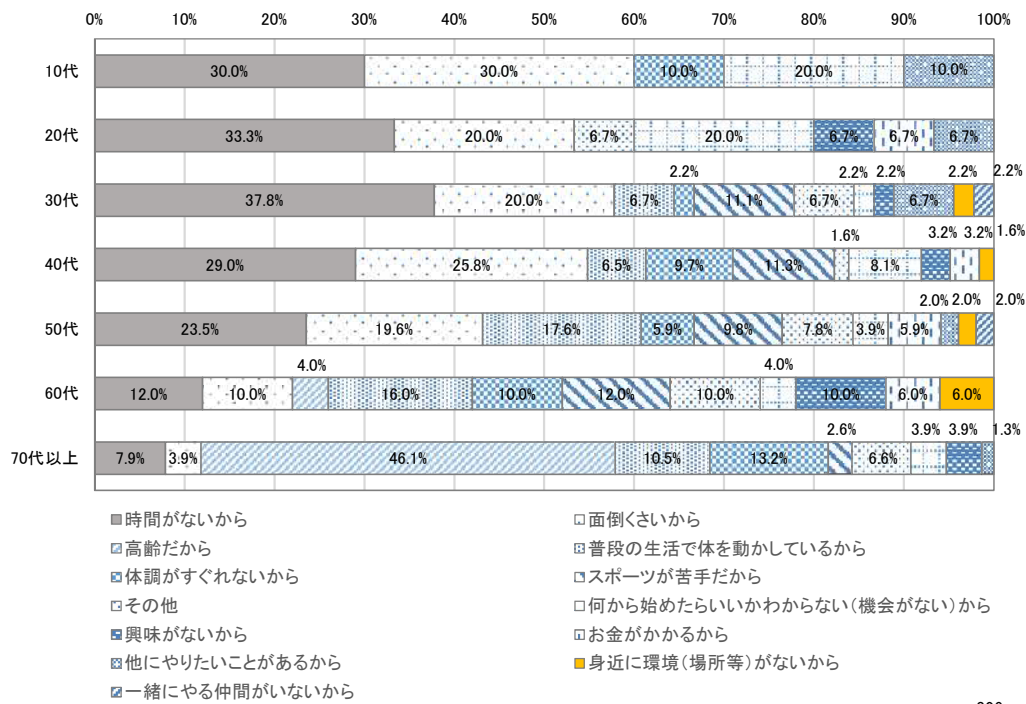
○この1年間にスポーツを全くしなかった理由

- ・全体では「時間がないから」(22.1%)が最も多く、次いで「面倒くさいから」(15.8%)となっています。
- ・「その他」(6.9%)の理由としては身体的な理由が多く挙げられています。

《この1年間にスポーツをしなかった理由》



《この1年間にスポーツをしなかった理由（年代別）》

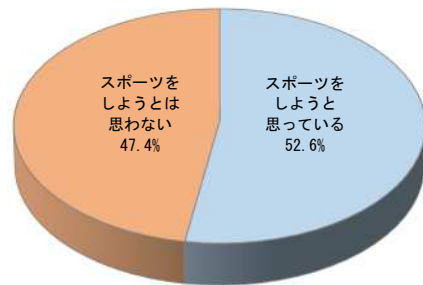


○スポーツをしない人のスポーツニーズ

- ・スポーツを全くしない人のうち、「今後スポーツをしようと思っている」(52.6%)の割合は過半数を超えています。
- ・年代別では、40代が「今後スポーツをしようと思っている」(74.6%)と回答した割合が最も高く、70代以上(30.3%)が最も低くなっています。

《スポーツをしない人のスポーツニーズ（年代別）》

	スポーツをしようと思っている	スポーツをしようとは思わない	総計
10代	5 (50.0%)	5 (50.0%)	10
20代	7 (46.7%)	8 (53.3%)	15
30代	27 (57.4%)	20 (42.6%)	47
40代	47 (74.6%)	16 (25.4%)	63
50代	27 (54.0%)	23 (46.0%)	50
60代	28 (54.9%)	23 (45.1%)	51
70代以上	23 (30.3%)	53 (69.7%)	76
総計	164 (52.6%)	148 (47.4%)	312

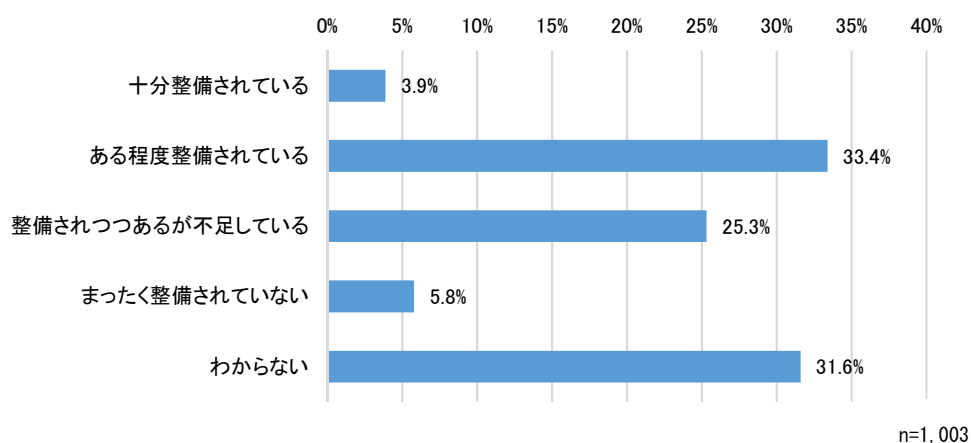


n=312

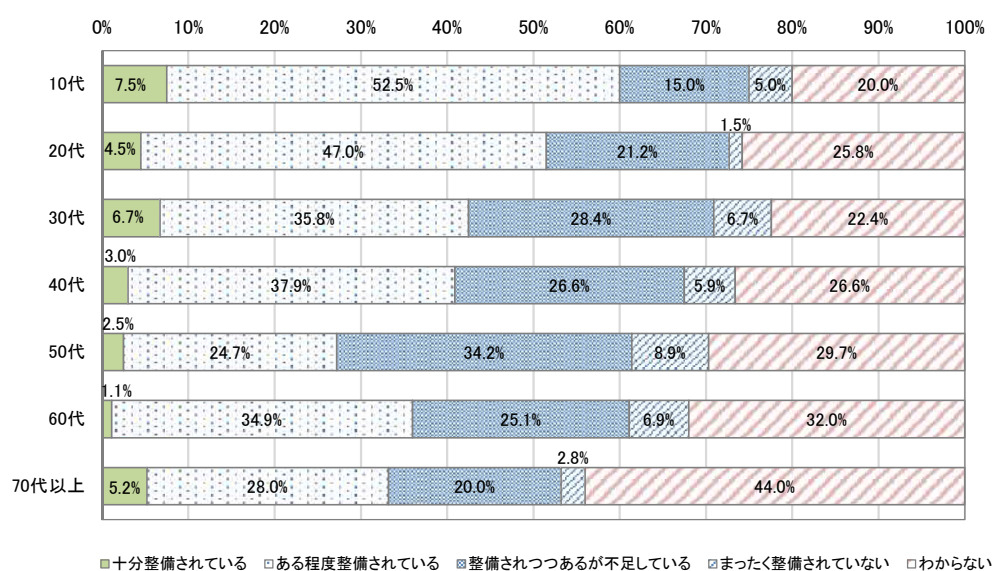
○スポーツをする環境の整備

- ・全体で最も多いのは、「ある程度整備されている」(33.4%)で、「十分整備されている」(3.9%)とあわせ、37.3%となっています。
- ・年代別では、50代が「整備されつつあるが不足している」(34.2%)と回答した割合が最も多く、「まったく整備されていない」(8.9%)とあわせて43.1%となりました。

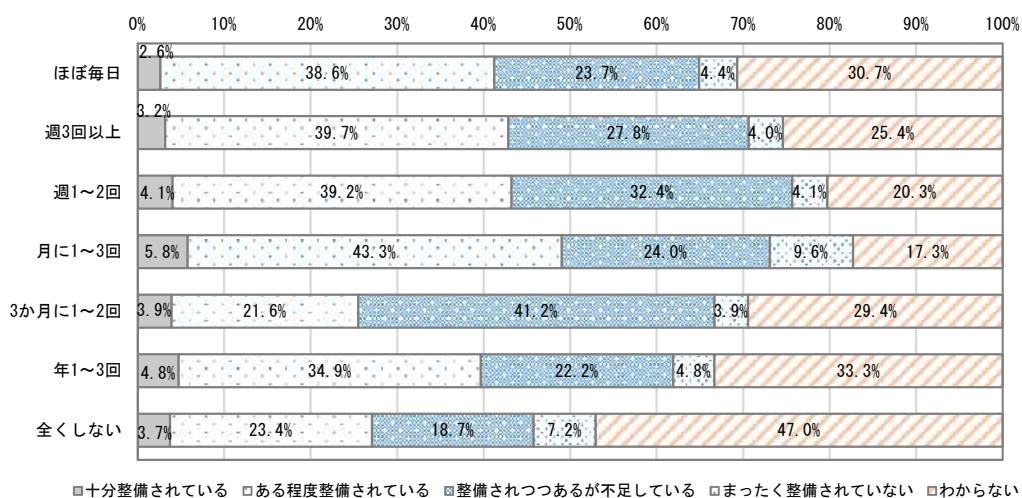
《スポーツをする環境の整備》



《スポーツをする環境の整備（年代別）》



《スポーツをする環境の整備（スポーツ実施頻度別）》



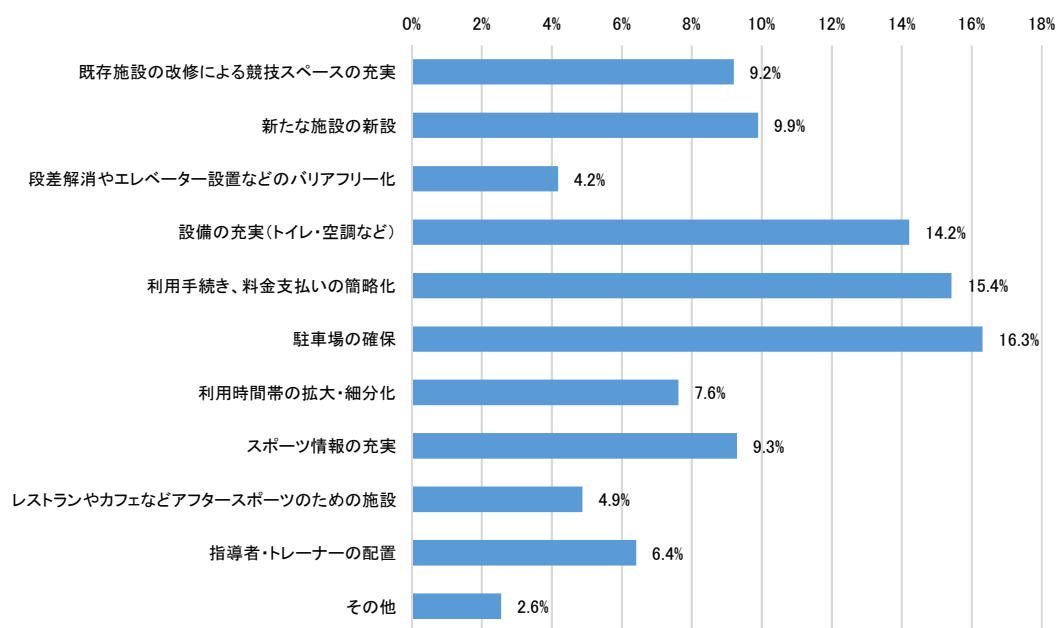
□十分整備されている □ある程度整備されている □整備されつつあるが不足している □まったく整備されていない □わからない

n=1,001

○スポーツがしやすくなる環境とするために必要なこと

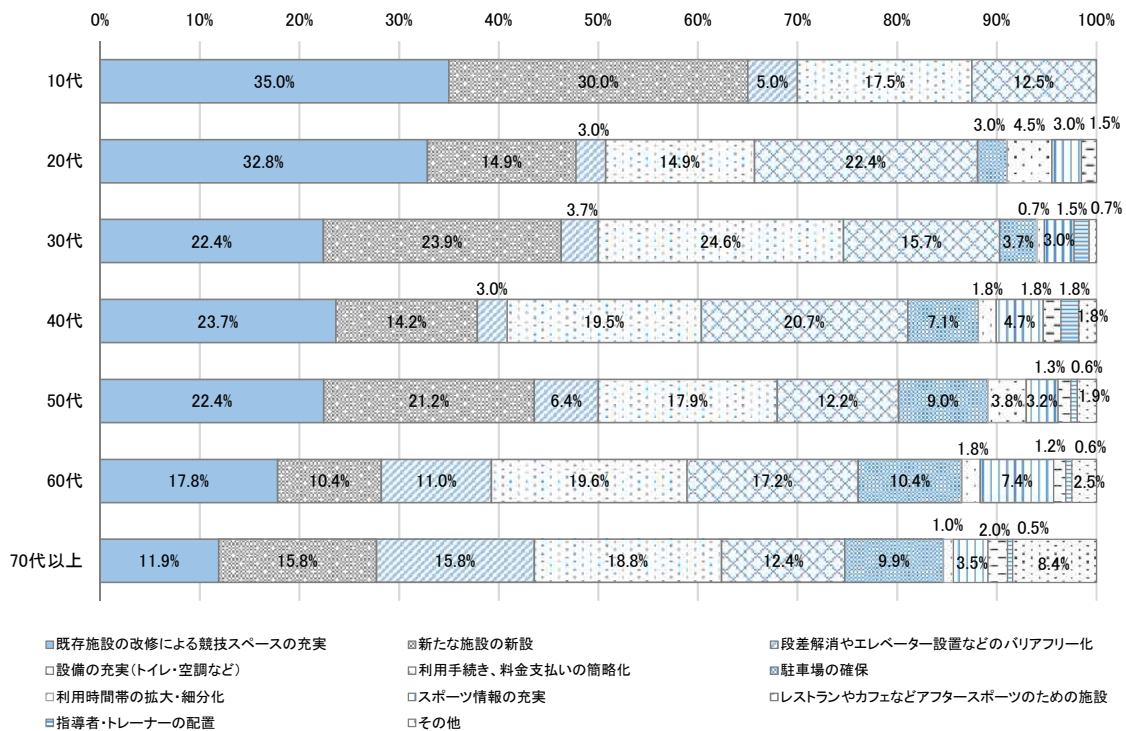
- ・全体で高い割合を占めるのは、「駐車場の確保」(16.3%)、「利用手続き、料金支払いの簡略化」(15.4%)、「設備の充実(トイレ・空調など)」(14.2%)があげられます。年代別にみても、特に大きな違いは見られません。

《スポーツがしやすくなる環境とするために必要なこと》



n=2,152

《スポーツがしやすくなる環境とするために必要なこと（年代別）》



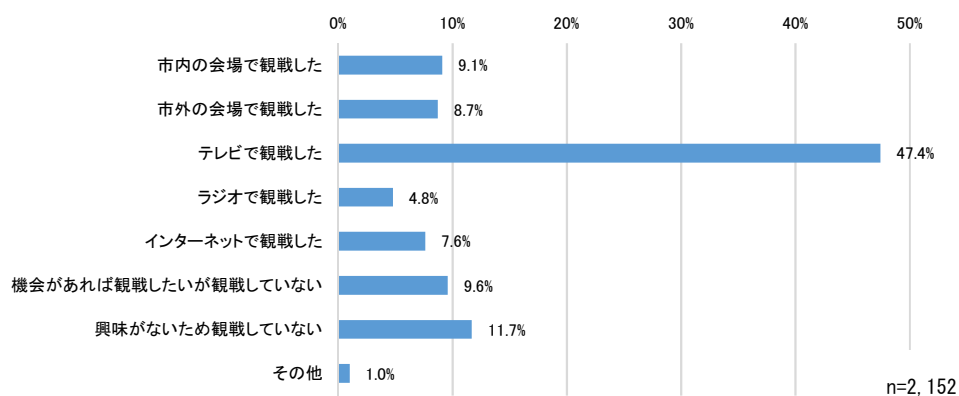
n=931

■スポーツを「みる」に関する調査結果

○スポーツをみる機会

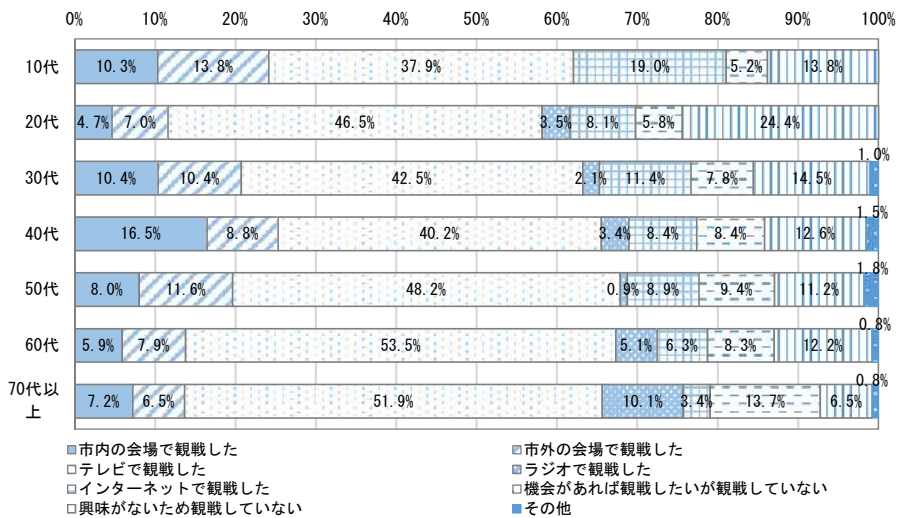
- ・全体で最も多いのは「テレビで観戦した」(47.4%)となり、全世代共通で高い結果となっています。
- ・市内・市外の会場で観戦した割合がやや多い世代は40代(25.3%)、10代(24.1%)となっています。

《スポーツをみる機会》



n=2,152

《スポーツをみる機会（年代別）》

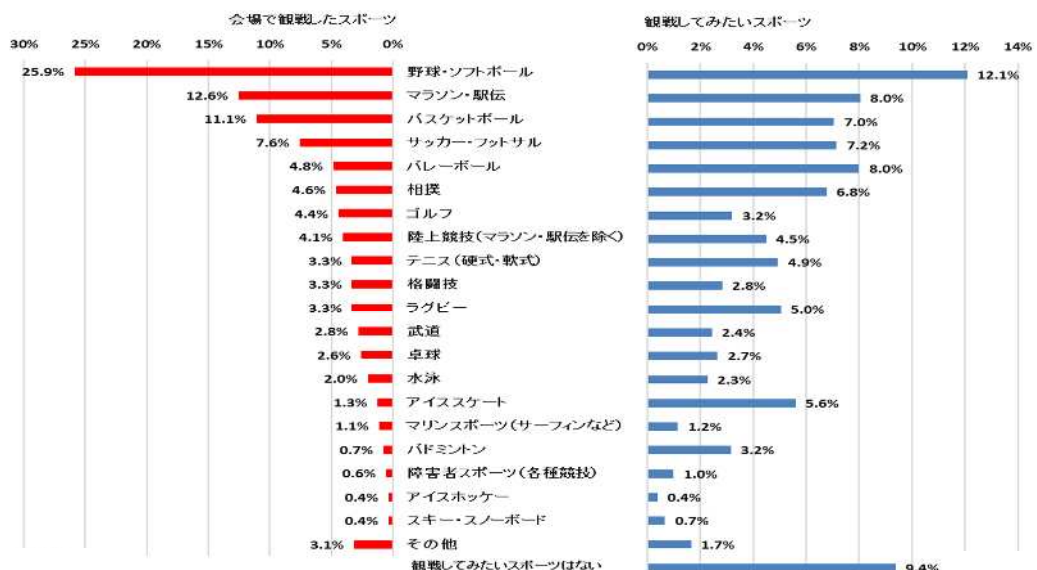


n=1,463

○会場で観戦した・観戦してみたいスポーツ種目

- ・会場で観戦した・観戦してみたいスポーツでは「野球・ソフトボール」の割合が最も高くなっています。
- ・「バレーボール」「ラグビー」「アイススケート」などが会場で観戦したスポーツに対し、観戦してみたいスポーツにおいて、その割合が比較的高くなっています。
- ・会場で観戦したスポーツのうち、「その他」の中には、ボクシング、モータースポーツなどがありました。会場で観戦してみたいスポーツのうち、「その他」の中には、ボクシング、モータースポーツ、スケートボード、ボルダリングなどがありました。

《会場で観戦した・観戦してみたいスポーツ種目》



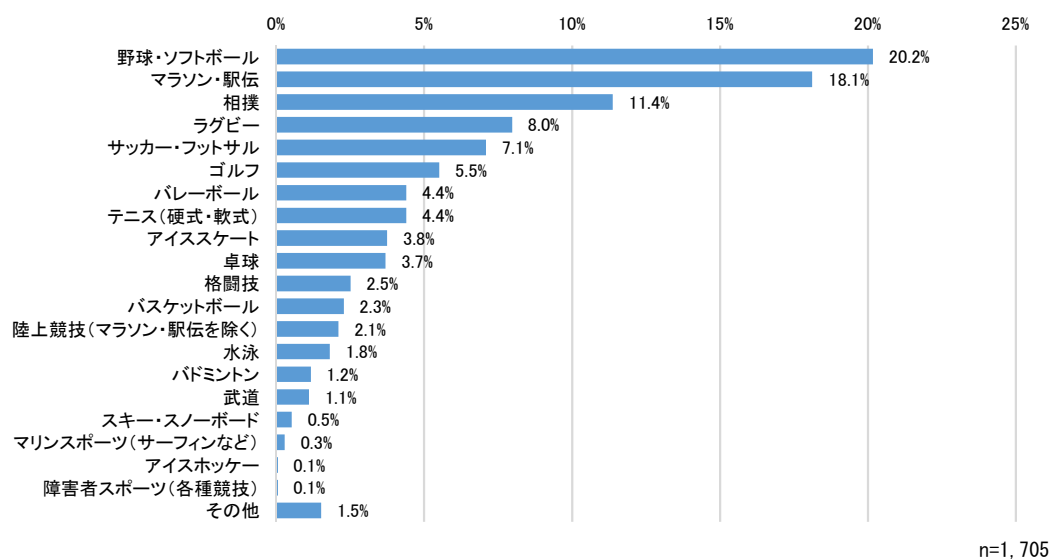
n=541

n=1,803

○テレビ・ラジオ・インターネットで観戦したスポーツ種目

- ・テレビ・ラジオ・インターネットで観戦したスポーツ種目で多いのは「野球・ソフトボール」(20.2%)、次いで「マラソン・駅伝」(18.1%)となっています。
- ・年代別では、「野球・ソフトボール」が全世代共通で上位の割合を占め、40代以降では「マラソン・駅伝」が上位の割合を占める傾向が見られます。

《テレビ・ラジオ・インターネットで観戦したスポーツ種目》



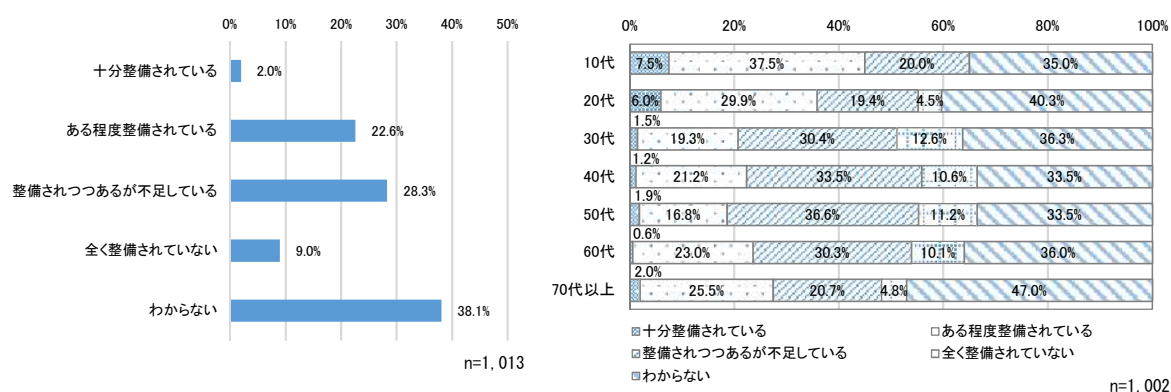
《テレビ・ラジオ・インターネットで観戦したスポーツ種目（年代別上位）》

年代	観戦したスポーツ	割合	年代	観戦したスポーツ	割合
10代	1位	28.6%	50代	1位	19.8%
	2位	14.3%		2位	18.3%
	3位	11.9%		3位	12.2%
	3位	11.9%			
20代	1位	23.0%	60代	1位	19.5%
	2位	16.1%		2位	18.7%
	3位	11.5%		3位	13.8%
30代	1位	20.6%	70代以上	1位	22.8%
	2位	17.0%		2位	21.0%
	3位	12.9%		3位	19.2%
40代	1位	23.3%			
	2位	14.7%			
	3位	12.4%			

○スポーツ観戦や応援をする環境

- ・「わからない」の割合（38.1%）が最も多くなっています。
- ・「十分整備されている」（2.0%）、「ある程度整備されている」（22.6%）があわせて24.6%であった一方、「整備されつつあるが不足している」「全く整備されていない」をあわせると37.3%となっています。

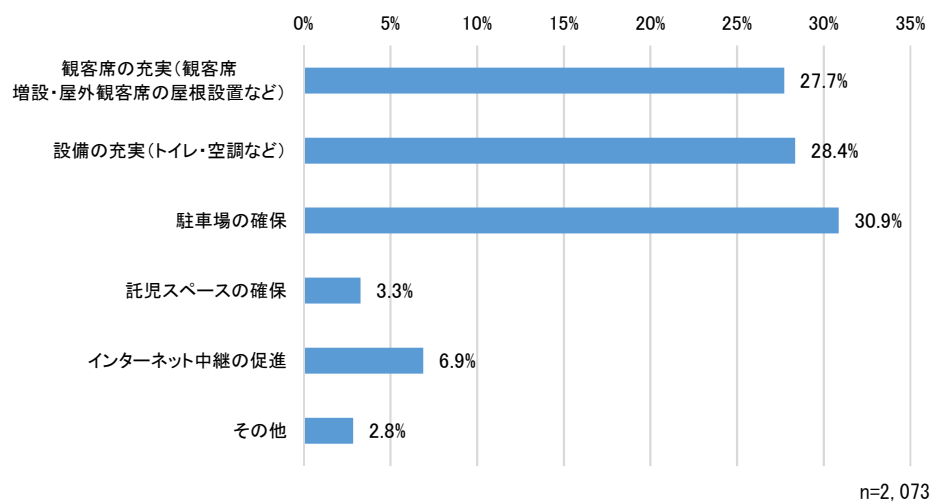
《スポーツ観戦や応援をする環境（年代別）》



○スポーツの観戦や応援がしやすくなる環境のために必要なこと

- ・「駐車場の確保」（30.9%）、「設備の充実（トイレ・空調など）」（28.4%）、「観客席の充実（観客席の増設・屋外観客席の屋根設置など）」（27.7%）と3つの回答が高い割合となっています。
- ・「その他」の回答としては、きちんとしたコロナ対策、キッズコーナーの設置、レストランやショッピングモールなど周辺環境の充実がありました。

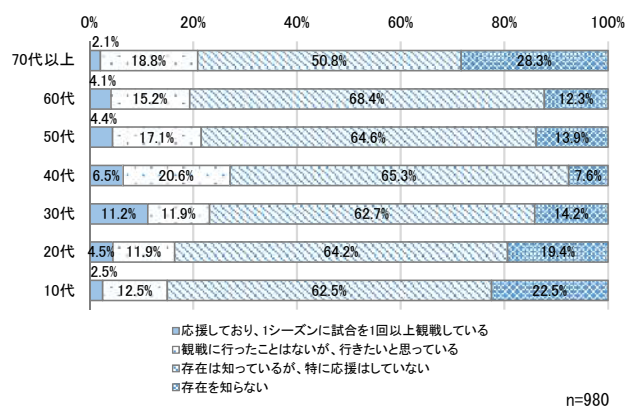
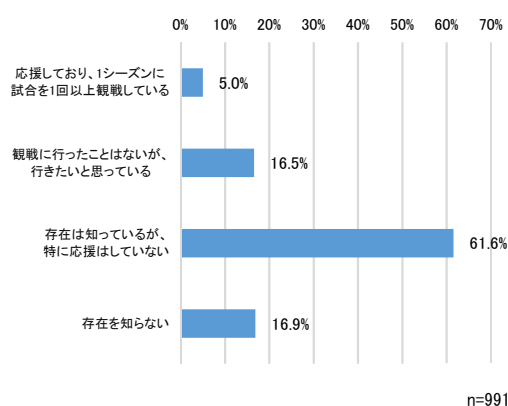
《スポーツの観戦や応援がしやすくなる環境のために必要なこと》



○三遠ネオフェニックスについての認識

- ・「存在は知っているが特に応援はしていない」(61.6%)の割合が最も高くなっています。
- ・「応援しており、1シーズンに試合を1回以上観戦している」、「観戦に行ったことはないが、行きたいと思っている」をあわせた割合は21.5%となっており、この割合が最も多い世代は40代(27.1%)となっています。

《三遠ネオフェニックスについての認識》

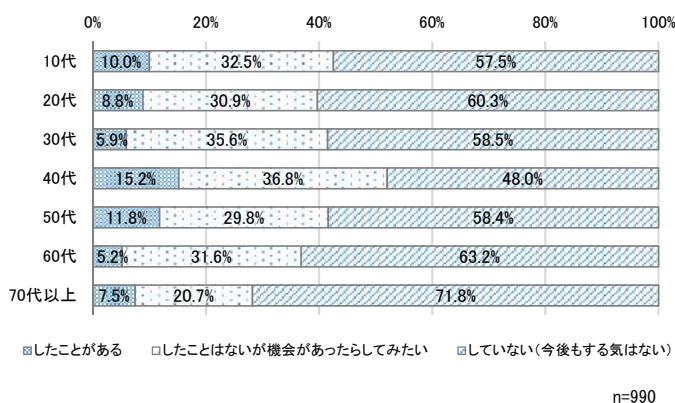
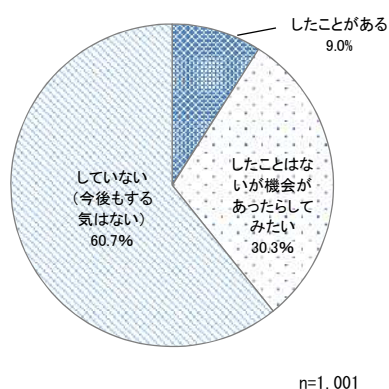


■スポーツを「ささえる」に関する調査結果

○スポーツをささえる活動

- ・全体で最も多いのは「していない(今後もある気はない)」(60.7%)となっています。
- ・「したことがある」、「したことはないが機会があったらしてみたい」をあわせた割合が最も高い世代は40代(52.0%)となっています。

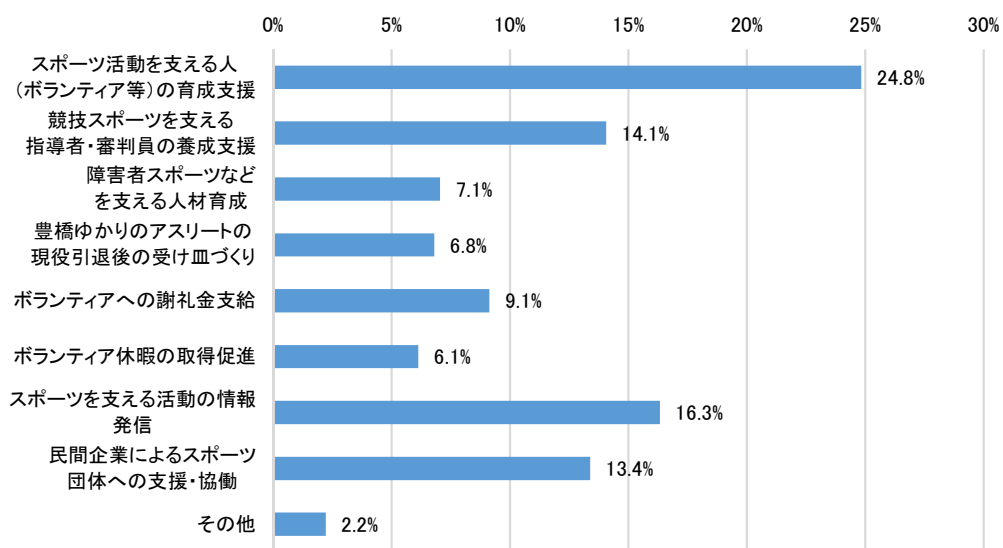
《スポーツをささえる活動(年代別)》



○スポーツをささえる活動に必要なこと

- ・「スポーツ活動を支える人（ボランティア等）の育成支援」（24.8%）が最も高い割合となっています。
- ・「その他」としては、やりがい及びメリットのPR、高齢者スポーツをささえる介護者の育成などがありました。

《スポーツを支える活動に必要なこと》



n=2,069

■スポーツ環境に関する調査結果

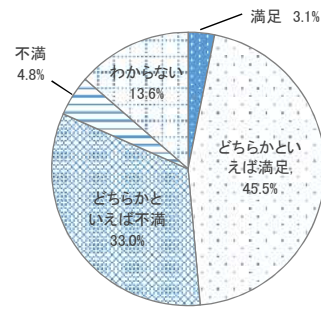
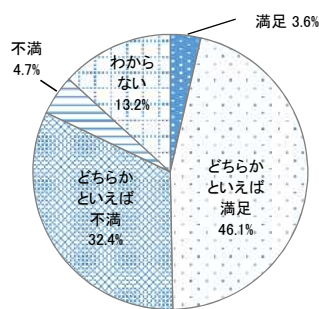
○スポーツ環境の満足度

- ・全体で最も多いのは「どちらかといえば満足」(46.1%)となっており、「満足」(3.6%)とあわせると、49.7%(成人以上の場合は48.6%)となります。
- ・年代別にみると、「満足」、「どちらかといえば満足」をあわせた割合が多い世代は10代(77.5%)、次いで20代(75.0%)となっています。
- ・年代別にみると、「どちらかといえば不満」、「不満」をあわせた割合が多い世代は、50代(47.0%)、次いで60代(44.5%)となっています。

《スポーツ環境の満足度(全体・成人以上)》

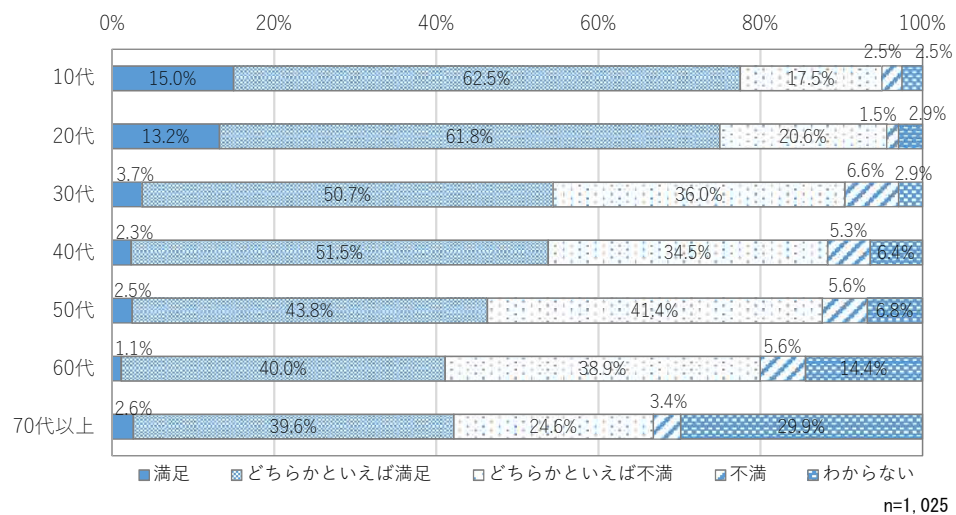
(全体)

(成人以上)

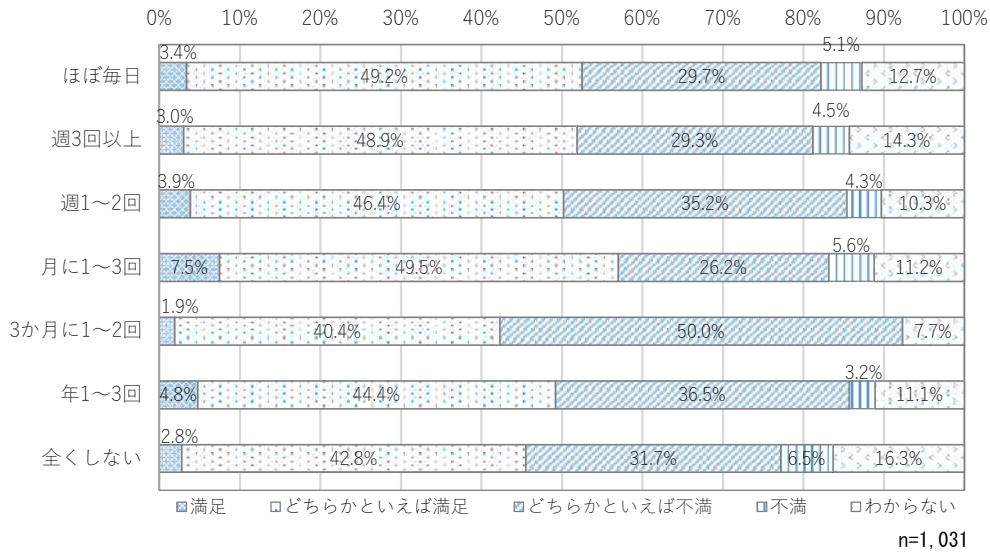


《スポーツ環境の満足度(年代別・スポーツ実施頻度別)》

(年代別)



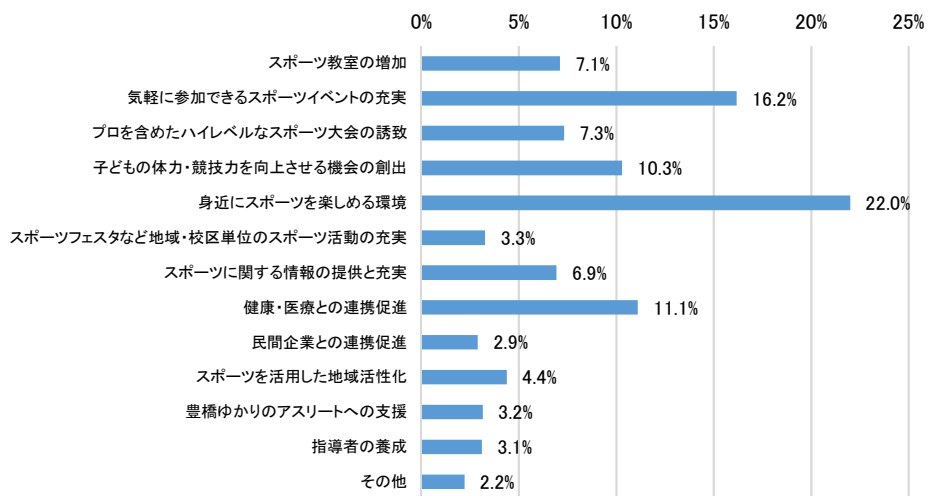
(スポーツ実施頻度別)



○スポーツ環境に求めるもの

- ・全体で最も多いのは、「身近にスポーツを楽しめる環境」(22.0%)、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントの充実」(16.2%)となっています。
- ・年代別では、「気軽に参加できるスポーツイベントの充実」が全世代共通で上位の割合を占めています。
- ・20代から40代までは、「子どもの体力・競技力を向上させる機会の創出」が上位の割合を占めており、50代以降は、「健康・医療との連携促進」が上位を占めています。

《スポーツ環境に求めるもの》



n=2,349

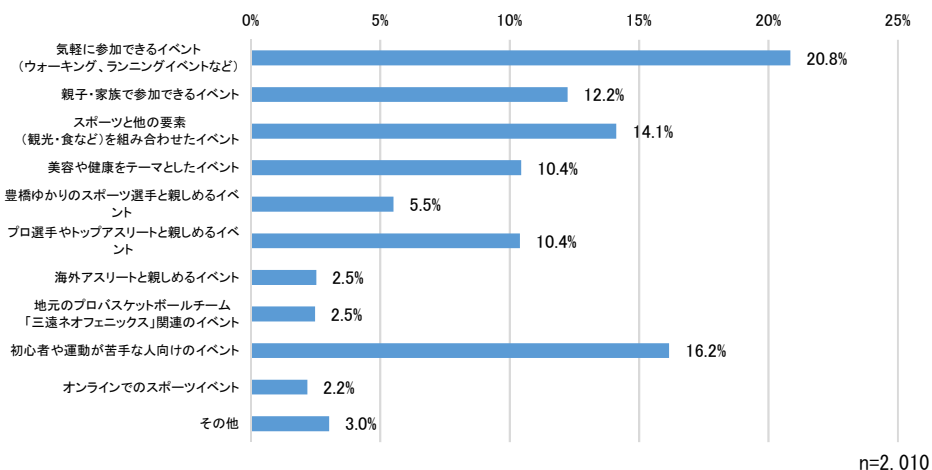
《スポーツ環境に求めるもの（年代別）》

10代	求めるもの	割合	50代	求めるもの	割合
1位	身近にスポーツを楽しめる環境	25.3%	1位	身近にスポーツを楽しめる環境	21.2%
2位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	19.0%	2位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	15.8%
3位	スポーツ教室の増加	11.4%	3位	健康・医療との連携促進	9.9%
3位	プロを含めたハイレベルなスポーツ大会の誘致	11.4%			
20代	求めるもの	割合	60代	求めるもの	割合
1位	身近にスポーツを楽しめる環境	25.2%	1位	身近にスポーツを楽しめる環境	23.4%
2位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	16.8%	2位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	16.1%
3位	子どもの体力・競技力を向上させる機会の創出	11.6%	3位	健康・医療との連携促進	13.7%
30代	求めるもの	割合	70代以上	求めるもの	割合
1位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	20.6%	1位	身近にスポーツを楽しめる環境	21.8%
1位	身近にスポーツを楽しめる環境	20.6%	2位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	15.9%
3位	子どもの体力・競技力を向上させる機会の創出	13.8%	3位	健康・医療との連携促進	14.4%
40代	求めるもの	割合			
1位	身近にスポーツを楽しめる環境	20.6%			
2位	子どもの体力・競技力を向上させる機会の創出	14.6%			
3位	気軽に参加できるスポーツイベントの充実	12.7%			

○参加してみたいと思うようなスポーツイベント

- ・全体で最も多いのは「気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）」(20.8%)、次いで「初心者や運動が苦手な人向けのイベント」(16.2%)となっています。
- ・年代別にみると、30代以降の全世代で「気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）」が上位を占めています。
- ・年代別にみると、20代から40代で「親子・家族で参加できるイベント」が上位の割合を占める傾向があります。
- ・幅広い年代で、「スポーツと他の要素（観光・食など）」が上位の割合を占めています。

《参加してみたいと思うようなスポーツイベントについて》



《参加してみたいと思うようなスポーツイベント（年代別）》

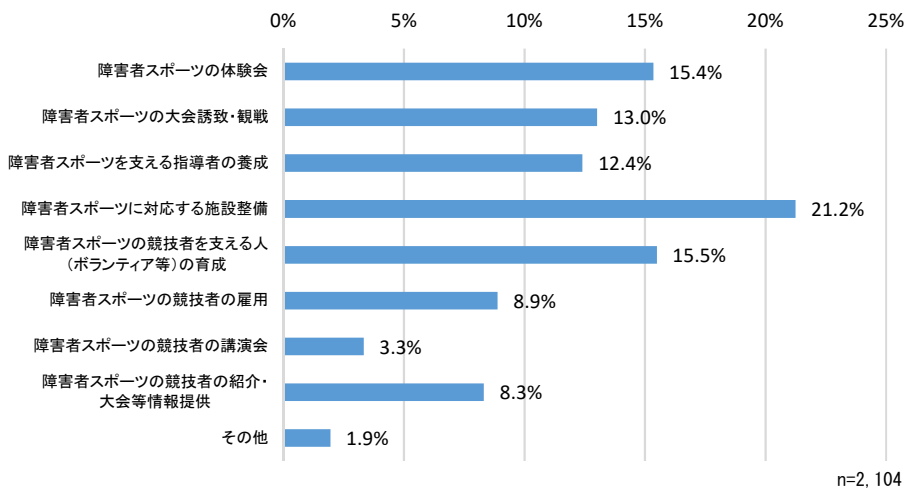
10代	参加してみたいイベント	割合	50代	参加してみたいイベント	割合
1位	初心者や運動が苦手な人向けのイベント	18.9%	1位	気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）	18.0%
2位	プロ選手やトップアスリートと親しめるイベント	17.6%	2位	初心者や運動が苦手な人向けのイベント	14.8%
3位	スポーツと他の要素（観光・食など）を組み合わせたイベント	14.9%	3位	プロ選手やトップアスリートと親しめるイベント	13.6%
20代	参加してみたいイベント	割合	60代	参加してみたいイベント	割合
1位	初心者や運動が苦手な人向けのイベント	17.4%	1位	気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）	31.7%
2位	美容や健康をテーマとしたイベント	14.6%	2位	初心者や運動が苦手な人向けのイベント	17.9%
3位	親子・家族で参加できるイベント	13.2%	3位	スポーツと他の要素（観光・食など）を組み合わせたイベント	15.0%
30代	参加してみたいイベント	割合	70代以上	参加してみたいイベント	割合
1位	親子・家族で参加できるイベント	22.6%	1位	気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）	25.6%
2位	気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）	15.6%	2位	初心者や運動が苦手な人向けのイベント	21.6%
3位	スポーツと他の要素（観光・食など）を組み合わせたイベント	14.1%	3位	スポーツと他の要素（観光・食など）を組み合わせたイベント	15.0%
40代	参加してみたいイベント	割合			
1位	気軽に参加できるイベント（ウォーキング、ランニングイベントなど）	19.7%			
2位	初心者や運動が苦手な人向けのイベント	14.7%			
3位	親子・家族で参加できるイベント	14.4%			

■共生社会に関する調査結果

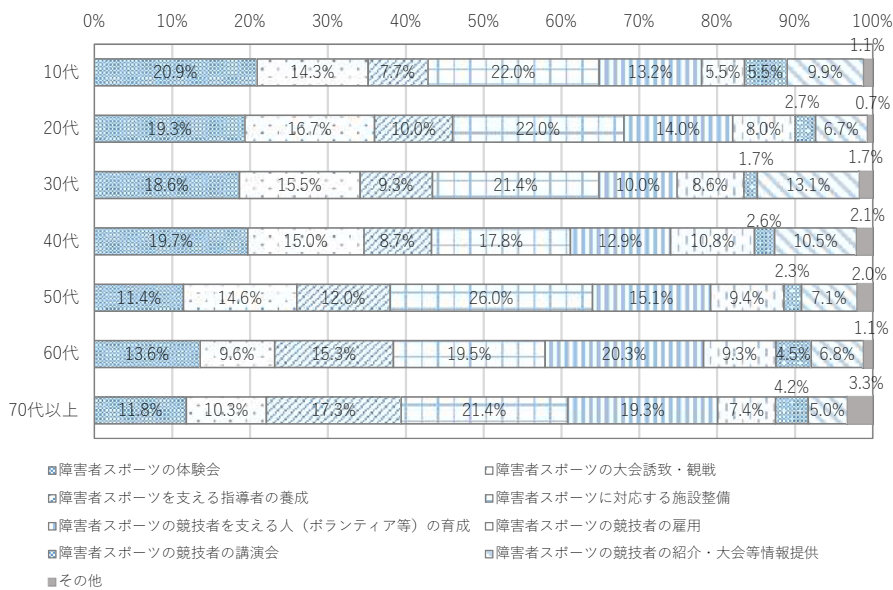
○障害者スポーツへの理解促進に向けた取り組み手法

- ・全体で最も多いのは、「障害者スポーツに対応する施設整備」(21.2%)、次いで「障害者スポーツの競技者を支える人(ボランティア等)の育成」(15.5%)となっています。
- ・取り組み手法に関しては、年代による大きな差異がありません。
- ・その他の意見としては、学校での障害者アスリートの講演会や、小・中学校での障害者との交流の機会の提供など、学校教育への組み込みを求める意見が多くありました。

《障害者スポーツへの理解促進に向けた取り組み手法》



《障害者スポーツへの理解促進に向けた取り組み手法について(年代別)》



(3) 関係事業者・団体等ヒアリング等

今後の「スポーツのまち」づくりに必要となる関係事業者・各種団体の実態並びに連携可能性等を把握するため、ヒアリングとアンケートによる調査を行いました。

■調査概要

- ・調査期間 2020（令和2）年8月25日（火）から11月13日（金）まで
- ・調査対象 関係事業者・団体等の代表者、支配人、マネージャー等
- ・実施団体等 関係事業者（トレーニングジム・プール・スイミング・テニス・フットサルなど28事業者）
（公財）豊橋市体育協会加盟団体（23団体）
総合型地域スポーツクラブ（既存の5クラブ）
障害者団体（県立豊橋特別支援学校、さくらピア、県立豊橋聾学校、市立くすのき特別支援学校）
- ・項目 コロナ禍の実態、利用者ニーズと変化、現状の課題、行政や体育協会等への期待、交流や連携、まちづくり並びに今後の展開 など

■ヒアリング結果（主な意見）

○関係事業者

- ・新しい生活様式への対応やコロナによる臨時閉館等の影響で経営的には非常に厳しい。
- ・子ども達が気軽に水泳できる機会が減ってしまう流れがあるのが心配だ。
- ・民間の広報・発信能力には限界があるので広告や告知で行政と連携できるとありがたい。
- ・健康増進の施策、高齢者の施策などで行政とコラボしたイベントを実施したい。
- ・あらゆる世代の方が働く世の中では、親が地域に子どもを預け、その地域ではリタイアした高齢者などが無償ボランティアでなく賃金で働けるようになることが重要だと思う。
- ・地域密着の「スポーツのまち」づくりを進めるのであれば、豊橋市は地区体育館が多くあることが強みとして捉えることができると思う。
- ・生涯活躍の「スポーツのまち」づくりを進めるのであれば、これからは健康セクションとの連携が大事になってくると思う。
- ・民間はビジネス視点でモノを考えるので、障害者の支援等に関しては、心情的にしたいけれども現実的にはなかなかできないというのが現状である。
- ・民間事業者は「営利目的」との理由で、公的な組織や団体から敬遠されやすい。まずはお互いのことを知り垣根が低くなればよいと思う。

○（公財）豊橋市体育協会加盟団体

- ・競技人口の減少、特に子どものスポーツ離れと体力低下に危機感を抱いている。遊びを取り入れた運動を実施し、体を動かすことを覚えてもらう取り組みが必要。
- ・競技団体の活動に対する地域住民の関心が低く、指導者やボランティアなどの支える人材が不足している。
- ・どうしても土日にニーズが集中するので、スポーツ活動をする場所の確保が難しい。
- ・障害者への理解を深めるために指導者の育成を図り、障害者が参加できるスポーツ機会提供できるよう障害者が健常者とともに行えるスポーツ教室などを開催したい。

○総合型地域スポーツクラブ

- ・子ども達の体を動かすことに対する刺激となるようプロの選手等と触れ合える機会を作ってくれるとありがたい。
- ・施設使用料が減免されることや、予約手続きをやってくれるということで加入しているチームが多く、どちらかというと繋がりは希薄になってしまっている。
- ・市や体育協会ともっと連携したイベント等を行えるといい。
- ・地域から出たアスリートが指導者となって地元に戻れるような仕組みがあるといい。
- ・団体の管理、施設の予約など事務的なマネジメントをやる人材がいないと、この先総合型地域スポーツクラブは苦しくなると思う。

○障害者団体

- ・障害者スポーツの振興には、指導者である先生やコーチだけではなく、保護者や関係者など多くの人の協力が不可欠になる。
- ・障害者スポーツをする場所、指導者、道具などが今のところ十分とは言えない。
- ・健常者が障害者スポーツをまずは見てもらう、そして体験してもらうことが、共生社会への一歩になるのではないかと思う。
- ・スポーツを通じて障害者が目標を持って立ち上がろうとする姿を、多くの市民に知ってもらいたい。
- ・市や体育協会のイベントなどに障害者がもっと参加できるような内容があるといい。
- ・障害者は、学校を卒業するとスポーツから離れてしまう傾向が強い。
- ・障害者は、チームスポーツ・団体競技をするハードルが、健常者に比べ非常に高い。

(4) 豊橋市「スポーツのまち」づくり推進計画策定市民委員会

「スポーツのまち」づくり推進計画の策定にあたり、多方面からの市民意見を反映させるとともに計画の実行性を高めるため、学識・医療・地域スポーツ・競技スポーツ、スポーツ施設管理など、スポーツ関係のさまざまな分野で活躍される方を委員として構成する「豊橋市「スポーツのまち」づくり推進計画策定市民委員会」を設け、スポーツを取り巻く現状や課題、将来ビジョン、アクションプランなど計画を構成する主なテーマについての議論を交わし計画づくりを進めてきました。市民委員会での主な意見は次のとおりです。

○主な意見

- ・人の役に立ちたいと考えている元気な高齢者はたくさんいる。そういう方とうまく連携することが重要である。
- ・子どものスポーツ機会の確保には、総合型地域スポーツクラブなどといった地域社会全体で取り組む必要がある。
- ・障害者がスポーツを行うための練習環境や施設のバリアフリー化などが進んでいないため、まずは障害者がスポーツに親しむために必要な情報があるとよい。また、障害者と健常者が一緒にスポーツができる環境があるといい。
- ・スポーツを通した「健康づくり」には、運動以外にも栄養・休養の要素も重要である。子どもや指導者がスポーツを好きでいられるよう、正しい知識を持つことが必要である。
- ・総合型地域スポーツクラブの運営には資金、時間に余裕のある指導者やスタッフが必要であるがなかなか集めることができない。外部講師や経済的援助があると助かる。
- ・ボランティアに頼るのみでなく、民間事業者などがビジネスとして参画できる仕組みや産官学の連携による牽引力が必要である。
- ・アスリートのセカンドキャリア支援や質の高い指導者の確保のため、雇用などの面で企業の協力を得ることで、良い人材に本市へ留まってもらえるアプローチが必要である。
- ・スポーツ施設の利用区分が細分化されるなど施設利用の自由度が増すと、より気軽に施設が使われるようになると思われる。
- ・他にはない資源があると人が集まる。スポーツツーリズムを推進することで、スポーツをやっていない人でもまちづくりに関われる。豊橋市に何が合っているか、何ができるかをしっかり考えて取り組むことが必要である。
- ・今後はスポーツをまちづくりのツールとして位置づけ、スポーツでさまざまな人々をつなぎ、それぞれの立場や価値観からまちづくりに関われる仕組みづくりが必要である。

(5) 基本認識

前計画「豊橋市生涯スポーツ推進計画」の成果や課題、スポーツを取り巻く社会潮流、市民や関係事業者の意見等を踏まえると、今後は次の視点を持ちながら「スポーツのまち」づくりに取り組むことが求められます。

■「する」「みる」「ささえる」スポーツ活動の推進と生涯活躍の「スポーツのまち」づくり

前計画「豊橋市生涯スポーツ推進計画」では、市民の豊かな生活に繋げてもらえるよう、穂の国・豊橋ハーフマラソンやみなとシティマラソン、スポーツフェスタなど市民参加型のスポーツイベントに重点を置き取り組んできました。しかしながら、市民アンケートからは、特に現役世代において週1回以上スポーツをしている割合が少ないことなどから、まだまだ市民の日々の暮らしにスポーツが十分に取り入れられていないことがうかがえます。

また、スポーツを取り巻く社会潮流や関係事業者や団体へのヒアリングなどから、スポーツには、「する」スポーツとしての関わり方だけでなく「みる」「ささえる」スポーツとしての関わり方があること、市民の健康意識の高まり等を理由に福祉や保健・医療などの分野との連携に効果が見込まれること、人と人とが互いに関わり合うことで新たな繋がりを生むことができることなど、市民の豊かな暮らしに資する多くの可能性があることが分かりました。

今後見込まれる生涯活躍社会・人生100年時代を見据え、長い人生を市民が心豊かに送るためには、能力や年齢、さらには興味や関心に応じ、「する」「みる」「ささえる」スポーツに日常的に取り組むことができる環境づくりを進め、市民一人ひとりが多種多様な形でスポーツに関わり生涯活躍できるまちづくりを進める必要があります。

■スポーツが持つ多様な価値の活用と共生社会実現への寄与

スポーツは、体力の維持や生活習慣病の予防などといった健康増進への寄与に加え、体力・コミュニケーション能力・克己心の向上が見込まれるなど青少年の健全育成においても大切な役割を担っています。

また、スポーツを取り巻く社会潮流、市民アンケートや関係事業者・団体へのヒアリングなどから、スポーツには、障害者の社会参画や活躍推進等に効果が見込まれることをはじめ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に代表されるように国籍などを問わず多くの人々に感動や共感をもたらす価値があること、プロスポーツの集客力などにより地域に新たな魅力や活力を生む効果が見込まれることなど、今後のまちづくりに活かすことができる社会的・経済的な価値を有していることが分かりました。

持続可能な社会を目指す時代の要請を踏まえ、行政はじめ関係団体・民間事業者が深く連携しながら、スポーツが持つ多様な価値をまちづくりに活かすとともに、障害の有無、国籍、性別等を問わず誰もが理解し合い共生できるまちづくりを進めることが重要になります。